

<検査の目的>

膵臓がんや胆道(胆のうや胆管)がんは、近年増加しています。しかし、自覚症状に乏しく、腹部の超音波(エコー)検査のみでは十分な観察が難しく、早期発見が難しい病気です。そこで2020年9月より、膵がんドックを新たに開始しました(36,300円<税込み>)。

膵がんドックでは、無症状の方を対象に、MRIによる画像診断により膵臓や胆道の異常を検索することを目的としています。MRIは、エックス線を使用せず、強い磁石と電磁波を使うので、被ばくの心配がなく、体に負担の少ない検査です。

<検査場所>

東京大学医学部附属病院(本郷)ではなく、**東京大学医科学研究所附属病院(港区白金台)でMRI検査をお受けいただきます。**検査当日、ご本人様確認のため、保険証と東大病院の診察券をご持参ください。

<MRIをお受けになる際の注意点>

①次の方々は、安全のために**検査を受けることができません。**

- 1) 心臓ペースメーカーなどの電気で作動する体内埋込物がある。
- 2) 排尿カテーテル・人工肛門・腹膜透析チューブ等を留置している。
- 3) 検査の2週間以内に、内視鏡検査を行い(胃・大腸・カプセル)クリップ処置を受ける。
- 4) 妊娠もしくはその可能性のある方
- 5) 閉所恐怖症もしくはその可能性のある方
- 6) MRI用経口消化管造影剤にアレルギーをお持ちの方や、過去に重い副作用が出た方

②次の方々は、**主治医へのご確認が必須**です。**主治医に「磁気が強い3(さん)テスラのMRI検査を受けて良いか？」必ずご相談ください。**主治医の許可がある場合のみ、検査を受けていただくことが出来ます。許可がない場合、もしくは不明の場合は検査を受けられません。

- 1) 手術やカテーテル治療で医療用金属材料が体内に入っている。
例: 脳動脈瘤クリップ・人工関節・ステント・骨接合プレート・義眼・その他
- 2) 入れ歯やインプラントをしている(磁石固定タイプの入れ歯や、マグネットインプラント、磁石を含むブリッジをしている場合は、検査が受けられません)。

③腹部MRI撮影では**検査を受ける前に最低6時間は食事を食べないでください。**
※持病のお薬を飲まれている方は、検査当日のお薬について主治医とご相談ください。

- 1) 午前撮影される方は、朝食を食べないでください。
- 2) 午後撮影される方は、朝食は食べてかまいませんが、昼食は抜いてください。
- 3) お茶や水の制限はありませんが、糖質を含むジュース類や脂質(クリームやミルク)を含む飲料水は避けてください。

<MRI用経口消化管造影剤の注意点>

経口消化管造影剤を使用することで、胃や腸管にある消化液の信号を抑え、膵臓や胆道をよりはっきりと撮影することが可能です。副作用として、軟便や下痢などの報告があります。

<その他注意点>

安全のために、検査前に以下のものをはずしていただきます。

- 1) コンタクトレンズ(保管容器または予備をご持参ください)
- 2) 皮膚に貼付する薬剤(予備をご持参ください)
- 3) 取り外しの出来る入れ歯、補聴器、取り外しの出来るかつら、金属のついた衣服
- 4) ふりかけ式増毛剤は、鉄分を含む場合がありますので、検査前に洗い落としてください。
- 5) 入れ墨やアートメイク等をほどこされている方は、変色したり、検査中に熱感を生じる可能性がありますので、ご注意ください。

ご不明な点のご遠慮なく予防医学センターまでお問い合わせ下さい。

東京大学医学部附属病院 予防医学センター
お問合せ電話番号(平日9:30-15:30)
03-5800-9033